

(別紙様式)

平成22年度 学校自己評価システムシート (県立寄居城北高等学校)

目指す学校像	総合学科として特色ある教育活動を展開する中で、知・徳・体の調和のとれた将来社会に貢献できる人材を育成し、地域から信頼される元気な学校づくりを目指す。
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の工夫・改善を図り、生徒の基礎学力定着と学力向上に努める。 2 服装頭髪指導やあいさつ運動を徹底して、規律ある生徒を育成する。 3 生徒の進路意識の醸成を図り、多様な進路希望に応じた進路実現を図る。 4 開かれた学校づくりを推進し、意欲ある生徒の確保に努める。
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	11名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価(2月25日現在)		
年度目標					年度評価(2月25日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生徒が入学する状況の中で、生徒一人一人の学力向上に向けた一層の授業改善の取組が必要である。 生徒一人一人が主体的に学習に取り組むように、授業方法を創意工夫する必要がある。 生徒の家庭学習習慣化への一層の取組が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力定着と学力向上 	<ul style="list-style-type: none"> わかる授業の展開に努める。 チャイム起立・チャイム終了の徹底を図る。 国語、数学、英語における習熟度別指導を充実させる。 少人数クラスや選抜クラスの学習指導を充実させる。 基礎力診断テストを実施する。 教育課程を工夫改善する。 教科毎に生徒の家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 成績不振者数が昨年度より20%以上減少したか。 基礎力診断テストの結果が昨年度より向上したか。 チャイム起立・チャイム終了の徹底できたか。 授業公開、職員研修を年各2回以上実施したか。 生徒アンケートで満足度が70%を超えたか。また、家庭での学習時間が増加したか。 	<ul style="list-style-type: none"> 成績優良者数は増加、成績不振者数は減少した。 チャイム起立・チャイム終了がほぼ徹底できた。 授業公開を11月2日に実施した。職員研修会を3回実施した。 4期生に向けた教育課程の工夫改善を進めた。 年2回のアンケートの結果、満足度は生徒61%、保護者73%であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上に向けた、わかる授業への一層の取組。 授業公開と職員研修会の充実実施。 基礎学力定着に向けた具体的な取組。 新教育課程移行への対応。 家庭学習習慣化への生徒の意識改革、家庭との連携指導。
2	<ul style="list-style-type: none"> 地域からの信頼を確かなものとするためには、規律ある行動がとれ、あいさつがしっかりできる生徒の育成が一層必要である。 安心・安全な学校づくりを推進するため、教育環境の整備に努める必要がある。 生命や人権を尊重する生徒の育成が必要である。 部活動や特別活動を一層活発にさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 規律ある生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の指導(服装・頭髪・あいさつ励行、遅刻防止)を徹底する。 生徒指導について逐次共通理解を図っていく。 月1回のマナー学習を工夫し効果的に実施する。 在り方生き方教育の推進。 部活動や特別活動を一層活発にし活動を展開する。 ボランティア活動へ積極的に参加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 服装・頭髪の違反生徒数、遅刻の生徒数が昨年度より減少したか。 生徒指導案件が昨年度より減少したか。 交通事故、薬物乱用、人権問題は皆無だったか。 在り方生き方教育の効果的な実施が図れたか。 部活動やボランティア活動等で昨年度以上の成果が得られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 服装・頭髪指導については、今年度新たに特別指導週間を設け徹底指導を続け、効果を上げた。 生徒指導案件は減少している。 大きな事故もなく安心・安全な学校づくりが推進された。 部活動が盛んになり、4部が県大会出場等、活発な活動を展開した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 規範意識の育成、道徳教育の一層の推進。 あいさつ励行、遅刻防止の徹底。 部活動や特別活動、ボランティア活動の活性化。 教職員研修会の実施。 防止、予防のための効果的な教室等の実施。 保護者と地域との連携と支援体制の充実。
3	<ul style="list-style-type: none"> 1期生(3年次生)の進路実現を図ることが最重要課題である。 キャリア教育の充実を図り生徒の進路意識の一層の醸成が必要である。 インターンシップの一層効果的な実施が必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年次生の進路実現 進路意識の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現のため企業及び上級学校との連携を強化する。 組織的な進路指導を推進する。 「産業社会と人間」の充実とインターンシップの円滑な実施を図る。 進路・学習ガイダンス機能を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年次生の100%の進路実現が達成できたか。 インターンシップでの適切な評価が得られたか。 各学年に応じた進路・学習ガイダンスが実施できたか。 分野別の指導及び補習の実施など組織的な進路指導が実施できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 現時点での進路決定率(就職94%、進学91%) 1年次生全員の効果的なインターンシップが実施できた。 各学年毎のきめ細かいガイダンス指導の充実がはられた。 進路に応じた補習を実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 2期生の100%の進路実現に向けた積極的な活動推進。 各学年に応じた効果的な進路・学習ガイダンスの実施。 進路に応じたきめ細かい補習等の実施。 インターンシップの充実。
4	<ul style="list-style-type: none"> 本校の「地域連携型の総合学科」という特色を広く周知するため、一層の情報発信のを行い、PR活動の拡充を図る必要がある。 意欲ある生徒を確保するための生徒募集を展開する必要がある。 地域やPTA等との連携を深め、一層信頼と魅力のある学校づくりを推進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 入学志願者倍率の確保 	<ul style="list-style-type: none"> HPや学校だよりをはじめ、情報(授業内容、学校行事、部活動等)を積極的に発信していく。 小中高連携や高大連携の積極的な活用を図る。 学校説明会を工夫改善する。 中学校説明会や塾訪問を積極的に展開する。また、塾や中学校対象説明会を開催する。 地域やPTA等の支援を本校の魅力づくりに活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> HPを毎週更新したか。 小中高連携、高大連携が十分機能したか。 学校評価懇話会・PTAの意見を反映したか。 学校説明会への参加者(のべ人数)が昨年度より10%増加したか。 入学志願者倍率が昨年度を上回ったか。 地域やPTA等の支援を学校づくりに活かしたか。 	<ul style="list-style-type: none"> HPを毎週更新(80回以上)し情報発信が図れた。 各連携を各場面で積極的に実施し、教育効果を上げることができた。 学校説明会への参加者数は、ほぼ同数であった。 入学志願者最終倍率は、1.09倍であった。 PTA、後援会の熱い支援により学習環境の充実が図られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 中学生とその保護者、中学校と塾に対し、より効果的なPR活動の展開。 小中高、高大、高専の積極的な連携推進。 地域やPTA、後援会、同窓会からの連携支援体制の充実推進。 HPや学校だより等、より積極的な情報発信の充実。

学校関係者評価	
実施日	平成23年2月28日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 受け身の姿勢ではなく、自ら進んで学習に取り組む姿勢の育成が大切である。 宿題の活用などは、家庭学習の習慣化に効果的な指導と考える。 授業参観への保護者の出席人数を増やすために、土曜日の実施も検討されたい。 生徒にマネジメントに関する教育を施すことが、学習面により効果をもたらすと考える。 年2回実施しているアンケートから、生徒が落ち着いて学習に取り組んでいる様子や保護者の考え方などが理解できる。 	
<ul style="list-style-type: none"> 教員の生徒指導体制がしっかりしている。 毎日の登下校指導や巡回指導、学期始めの重点指導など、きめ細かい指導が効果を上げている様子が窺える。 環境が人を変える。よい環境作りがよい人作りになる。家庭の協力も必要である。 学校で道徳教育に取り組むことは大変望ましいことである。是非継続してほしい。 休日にも多くの生徒が部活動に取り組んでおり、活発な印象を持っている。 地域へのボランティア活動や行事への積極的な参加は大変よい活動である。 	
<ul style="list-style-type: none"> 1期生の進路実現に向けた努力の成果が数字に現れている。この成果を2期生にも是非生かしてほしい。 働く心構えができている生徒は、就職が内定している。自分で将来を決めようとする態度の育成が大切である。 PTAとしても、企業見学や大学見学に取り組んでいきたい。 国公立大学への進学者を輩出してほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> HP80回以上の更新や学校便り27号の発行は、積極的な情報発信として大変よい取組である。 保護者へのPRを一層強化されたい。 地域の行事への積極的な参加が、学校のイメージアップにつながっている。 寄居中学校2年生全員を対象とした体験授業の実施は、中学校としても生徒の進路選択に役立っており、継続してほしい。 PTAが取り組んだ冷房設備設置やスクールバス(試行)導入も、学校のPR活動に貢献できたと考えている。 	